

特集

教学マネジメント

学修者本位の教育への転換

2018年11月に打ち出された文部科学省中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」においては、「2040年の展望と高等教育が目指すべき姿」として、その冒頭に学修者本位の教育への転換という言葉が明示され、「何を学び、身に付けることができたのか」+「個々人の学修成果の可視化」さらに、個々の教員の教育手法や研究を中心にシステムを構築する教育からの脱却が必要であるとされている。さらに、そのような学びの質保証システムへの転換に向けて、「教学マネジメントの確立」や「情報公表のさらなる充実」については、検討事項として大学分科会教学マネジメント特別委員会へと引き継がれ、2020年1月には教学マネジメント指針が策定され各大学に示された。本特集では、教学マネジメントとは何か、その本質について様々な観点から掘り下げるとともに、既に学修者本位の教育プログラムの実現や学修成果の可視化に取り組んでいる大学の事例を取材した。

-
- P6-9 **教学マネジメントが目指すもの**
—学修者本位の教育を実現するために
日比谷 潤子 国際基督教大学
- P10-13 **教学マネジメントの実質化に向けて**
—九州大学カリキュラム・マップによる学修者本位の教育文化の構築
深堀 聡子 九州大学
- P14-15 **教学マネジメントを支える基盤としてのIR**
浅野 茂 山形大学
- P16-19 **教学マネジメント指針** —策定の狙いと要点
平野博紀 文部科学省
-
- P20-31 **学修者本位の教育を実践する大学の事例**
CASE 1 産業能率大学
CASE 2 日本福祉大学
CASE 3 松本大学松商短期大学部
-
- P32-33 **編集長の視点**
-

